

# 1月・2月の管理ポイント

ホームページアドレス  
<http://www.tomo-green.com/>

第79号

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は、気象庁の見解では、気温は年の前半は低く後半に持ち直して、結局は平年並みとの事でしたが、降水量は春から秋にかけて東日本太平洋側と西日本で極端な少雨だったようです。特に四国では長期間渇水状態が続きました。

毎年、気候は変動しますが、どのような環境ストレスにも耐えられるような素晴らしいグリーン、素晴らしいコースを造っていきましょう!!

本年3月より、芝生管理資材としては全く新しく、これ迄の分類になかった**抗ストレス剤『レボ』**の発売開始となりますので、本品の予習を致しましょう。即ち一口で言えば、サマーディクライン等のストレス障害に対し、これ迄のプライマーでの管理を凌ぐ商品だということです。

本号は、年初めですので、今シーズンの**レボ**による効率的な水管理をご提案させていただきます。

## 3~5月

春の水管理が芝生の根をしっかりと伸ばすポイントです!!

グリーンの表層を少し乾燥気味にして、根に軽いストレスを与え下層にある水分まで伸ばさせます。

レボは土壌粒子の表面を極端に薄い膜で覆いますので、土壌中の空隙率がアップし、表層の加湿を防ぎます。

定期処理することによって、根が下に伸びやすい環境を整えてやり、夏が来るまでにしっかりと根を伸ばしておきましょう。

使用量：レボ 2ml/m<sup>2</sup> 散布水量：200ml ~ 1L/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回

## 6~9月

梅雨時期は、降雨が続きますので、グリーン表面が柔らかくなり、パッティングクオリティが低下します。

又梅雨明け後は、グリーンが一気に高温・過湿状態となり、蒸れて病気や根腐れを引き起こすので、予めレボ処理により余分な土壌水分を排除し、過湿状態を改善します。

8~9月は高温・乾燥が続くため、スプリンクラーによる散水回数が増えてしまい、散水した水が土壌中に停滞すると温水となり根上がりの原因となります。

レボ処理によって土壌中の空隙率をアップさせ、根に必要な水分だけを残し、余分な水分は排除しましょう。

使用量：レボ 2ml/m<sup>2</sup> 散布水量：200ml ~ 1L/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回

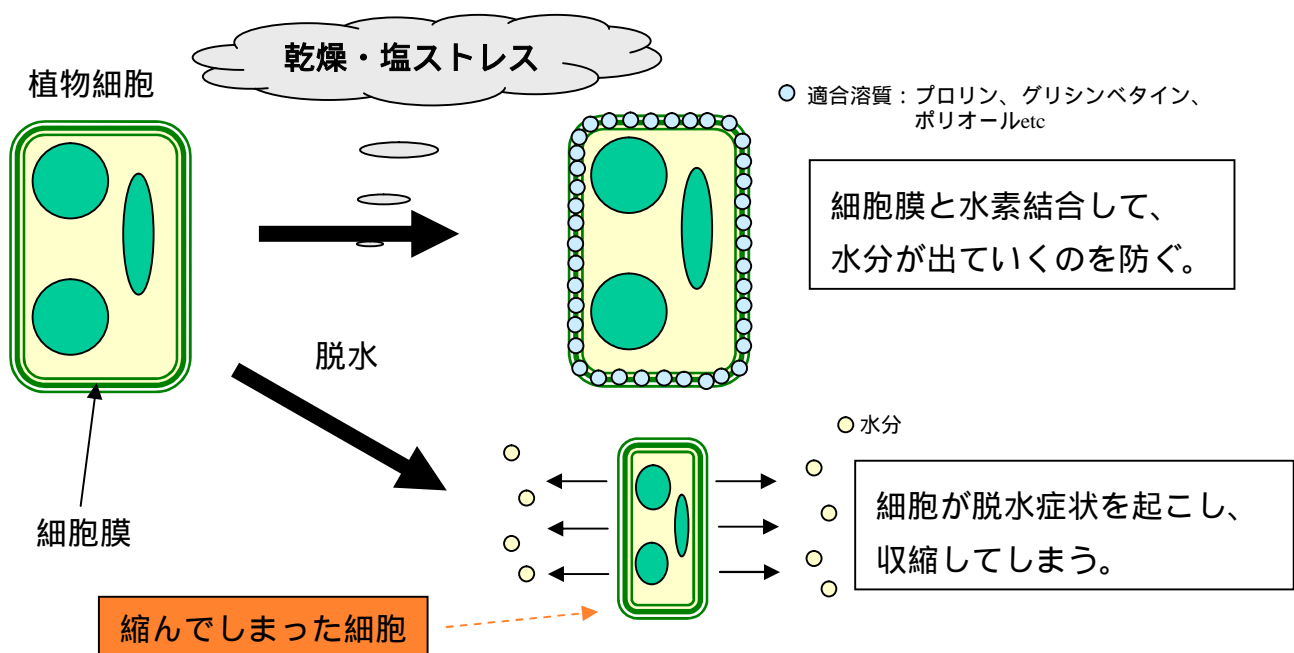
レボには、いろいろ聞き慣れない用語が登場します。その一つプロリンについての解説

# 植物内のプロリンの働き

プロリンは植物内でどのように作られ、どのような働きがあるのでしょうか

プロリンは、植物の水分保持機能に関わる重要なアミノ酸で、浸透圧調節物質、適合溶質などと呼ばれています。

乾燥ストレスや塩ストレスによって、植物内の塩濃度が上がった時、細胞内でプロリンが増加し、細胞膜の浸透圧を調整して細胞が縮むのを防ぎます。



## プロリンは、どこで作られるのでしょうか

植物細胞中のミトコンドリア内のTCA回路で生じる2-オキソグルタル酸と植物が吸収したNH<sub>3</sub>（アンモニア）が反応してグルタミン酸となり、それがさらにプロリンへと反応していく。

